令和５年度

「運営に関する計画」

最終評価

咲洲みなみ小中一貫校

大阪市立南港みなみ小学校・大阪市立南港南中学校

令和６年３月

（様式１）

咲洲みなみ小中一貫校　大阪市立南港みなみ小学校・大阪市立南港南中学校
令和５年度　運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1　学校運営の中期目標

現状と課題

- 生活指導面
  - 本校の児童生徒は、比較的落ち着いて授業を受けることができており、規範意識も高く学校のきまりや校則を正しく守っている。（学校評価アンケートにおいて「学校のきまり／ルールやマナーを守っていますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は、小学校で約 92%、中学校で約 93%。）
  - 新たに不登校となる児童生徒の割合はわずかに増加傾向にある。（小学校：令和３年度約 0.3%→令和４年度約 1.5%、中学校：令和３年度約 0.9%→令和４年度約 1.0%）
- 学力・体力面
  - 学力については、各調査において多くの学年が市または府の平均点を下回っている。令和４年度の小学校学力経年調査・中学校チャレンジテストにおける標準化得点は以下の通りで、基礎学力の向上が喫緊の課題となっている。

３年	４年	５年	６年	７年	８年	９年
98.8	98.0	97.4	101.1	87.4	101.9	96.4

  - 児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」を保障すべく、一人一台端末をはじめとする ICT 機器を積極的に活用し、学習意欲の向上を図っている。
  - 体力向上については、運動意欲と体力の向上を図る教科指導により、中学生は改善傾向にあるが、小学生は低迷が続いている。日々の食育指導を通して、自らの体力への関心は高まりつつある。
- その他
  - 本校の児童生徒は自己肯定感が低く、学校評価アンケートにおいて「自分には良いところがある」の質問に対し肯定的回答を示した割合は、小学生は約 79%（前年度約 83%）、中学生は約 61%（前年度約 58%）といまだ低い状態である。日々のあらゆる教育活動の中でこれを高めていく必要がある。
  - 大阪市で５校目の施設一体型小中一貫校として、本校の特色をこれまで以上に打ち出し、全市に向けて発信していく必要がある。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和 7 年度の学校評価アンケートで「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を小学校 85%、中学校 75%以上とする。
- 令和 7 年度の学校評価アンケートで「自分にはよいところがあると思いますか」の質問に対して、肯定的に答える児童生徒の割合を小学校 90%、中学校 70%以上とする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査・中学校チャレンジテストにおいての令和７年度標準化得点を３年～９年の全学年 100 以上とする。
- 令和７年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、８項目すべてで全国平均を上回る。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和７年度の学校評価アンケートで「タブレットや PC を取り扱うことは楽しい」の質問に対する肯定的回答の割合を小学校 96%、中学校 90%以上とする。
- 令和７年度において、ゆとりの日については月２回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は４日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては３日以上設定する。
- 令和７年度末で年間図書館を利用した児童生徒の延べ人数を小学校 10,000 人、中学校 1,000 人以上とする。
- 令和７年度まで保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を年々増加させる。

２　中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- 小学校学力経年調査・中学校年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的に回答する児童生徒の割合を小学校・中学校ともに 85%以上にする。（R04 年度小学校 79.1%、中学校 78.5%）
- 年度末の校内調査において、不登校児童生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童生徒の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

- 年度末の校内調査において､学校で認知したいじめについて解消した割合を 100%にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 小学校学力経年調査・中学校年度末の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童生徒の割合を小学校は 45%、中学校は 55%以上にする。（R04 年度小 36.6%、中 44.6%）
- 小学校学力経年調査・中学校チャレンジテストにおける国語および算数・数学の平均正答率の対市比及び対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より１ポイント向上させる。

R04	３年	４年	５年	６年	７年	８年	９年
国語	97.0	97.2	95.3	99.6	83.6	91.8	91.1
算数/数学	99.2	97.9	96.9	98.0	77.6	104.3	93.9

- 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 93%以上にする。(R04 年度 90.7%)
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。(R04 年度 68.3%)
- 大阪市英語力調査におけるＣＥＦＲ Ａ１レベル相当以上の英語力を有する中学３年生の割合(４技能)を 60%以上にする。(R04 年度 52.9%)
- 小学校学力経年調査・中学校年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の質問に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童生徒の割合を小学校で 70%以上、中学校で 60%以上にする。(R04 年度小学校 61.5%、中学校 53.7%)

学校園の年度目標

- 基礎学力の定着を目指し、学校評価アンケートにおける「家庭学習が習慣になっている」という質問に対する肯定的回答を小学校で 85%以上、中学校で 55%以上とする。(R04 年度小学校 77.5%、中学校 48.6%)

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

【ＩＣＴの活用に関する目標】

- 学校評価アンケートで「タブレットや PC を取り扱うことは楽しい」の質問に対して、肯定的に答える児童生徒の割合を小学校で95%以上、中学校で85%以上とする。(R04 年度小学校 92.7%、中学校 78.5%)

【教職員の働き方改革に関する目標】

- 教職員の月間時間外勤務実績を前年より減少させる。(R04 年度小学校約 29 時間、中学校約 50 時間)
- 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 95%以上にする。(R04 年度 89.0%)

学校園の年度目標

- 学校評価アンケートで「読書は好きですか」の質問に対して、肯定的に答える児童生徒の割合を前年度より増加させる。(R04 年度小学校 82.6%、中学校 57.6%)
- 学校ホームページのアクセス数を年間 75,000 件以上とし、保護者地域への情報発信に努める。

3　本年度の自己評価結果の総括

- 「いじめは許されない」という認識が浸透し、児童生徒の人権感覚が培われてきている。また、定期的な情報共有や生活指導研修を重ね、児童生徒に安全・安心を与えられる学校づくりを進めてきた。いじめ・不登校への取組として、人間性の醸成による未然防止と早期発見や適切な初期対応につながる指導力の向上を両輪として進め、児童生徒の「居場所」となる学校づくりに引き続き取り組んでいく。また、現在起こるトラブルのほとんどにスマートフォンや SNS が関係し、その被害を大きくしていることからも、今後、児童生徒へのメディア・リテラシーの指導と保護者への情報提供・注意喚起を進める必要がある。
- 自分の考えを深め広げるために、小学校では国語科の授業研究を進めたり、中学校では「総合的読解力育成カリキュラム」に取り組んだり、授業改善に取り組んできたが、児童生徒がそれを感じられるまでには至らなかった。また、基礎学力の向上については、家庭学習の定着と合わせて課題が残る結果となった。児童生徒の学習意欲や家庭学習の必要感をどのように高めていくか、既存の方法にとらわれず新たな取組の検討が必要である。健やかな体の育成においては、引き続き運動意欲の向上を図る一方、「朝食」と「睡眠」にも着目し、児童生徒が自身の生活リズムを整えることができるよう取り組んできた。今回把握できた児童生徒の現状をもとに、小中一貫校として９年間を見据えた育成を進めつつ、不可欠となる家庭との連携にも取り組んでいく。
- 一人一台端末の活用と推進については、環境整備や活用方法の工夫を進めてきたが、目標には届かなかった。今後は、家庭学習で使う等、これまでの取組にとらわれない効果的な活用を検討していきたい。働き方改革の推進に関しては、月間時間外勤務の時間数は改善傾向に転じ、年間 10 日以上の年次有給休暇の取得についてもほとんどの教職員で達成することができた。今後も、教育 DX による効率化と行事の見直しを進め、教職員のワークライフバランスの調和を図っていく。家庭・地域との連携については、小中一貫校として本校の特色をホームページ等で発信したり、地域行事等への参加を進めたりしてきた結果、本校教育活動への理解が一層進んでいる。

（様式２）

咲洲みなみ小中一貫校　大阪市立南港みなみ小学校・大阪市立南港南中学校
令和５年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標１　安全・安心な教育の推進】 全市共通目標（小・中学校） ● 小学校学力経年調査・中学校年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童生徒の割合を小学校・中学校ともに 85%以上にする。（R04 年度小学校 79.1%、中学校 78.5%） ● 年度末の校内調査において、不登校児童生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 ● 年度末の校内調査において、前年度不登校児童生徒の改善の割合を増加させる。 学校の年度目標 ● 年度末の学校評価アンケートにおいて、学校で認知したいじめについて解消した割合を 100%にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【１　安全・安心な教育環境の実現】 ● いじめ・不登校に関する共有を徹底するとともに、組織としての対応に努める。 ● 災害や事故を想定し、未然防止や適切な初期対応を徹底するため、適切な防災教育や教職員研修に努める。 指標 ➢ **小学校学力経年調査・中学校年度末の学校評価アンケートにおける「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を小学校 97%以上、中学校 95%以上にする。（R04 年度小学校 95.3%、中学校 93.2%）** ➢ **避難訓練等、防災や事故防止に関する全校的な取組を年間３回以上実施する。**	B
取組内容②【２　豊かな心の育成】 ● 全学年、日々の授業のみならず総合等も含め、特色ある授業や芸術鑑賞、社会体験等を通して児童生徒の情操教育を進めるとともに、いじめ・不登校の未然防止を図る。 指標 ➢ **児童生徒の「感じ方」や「人間性」の醸成につながる魅力的な学校行事・特別授業を、小中ともに年間２回以上実施する。** ➢ **児童生徒理解や生活指導に係る教職員研修を年間５回以上実施する。**	A
年度目標の達成状況や取組の結果と分析	

● 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に対し、肯定的な回答を示した児童生徒の割合は、小学校（小学校学力経年調査）で約 96%と目標をわずかに下回り、中学校（第２回学校評価アンケート）で約 95%と目標と同値となった。また、アンケートにおいて学校が認知したいじめについては、すべて解消することができた。今後も、「いじめは許されない」という認識がすべての児童生徒に浸透するよう取組を継続していく。 ● 防災教育については、6/13 に火災による避難訓練、10/21 に地域合同防災訓練で地震・津波による避難とジュニア防災リーダーによる活動等、1/31 に不審者侵入による避難訓練の３回を実施し、避難の仕方等を確認するとともに、児童生徒への意識付けを図ることができた。 ● 魅力的な学校行事・特別授業として、小学校では、たてわり班活動による全校遠足や外部講師による各種出前授業、地域とのふれあい活動等で計８回、中学校では、選択授業や文化発表会、作品展で計３回の取組を実施し、児童生徒の「感じ方」や「人間性」の醸成を図った。目標を上回って実施することができた。 ● いじめ事案への対応については、生活指導研修会（4/4）、スクールロイヤーによる生活指導研修（6/21）の計２回、児童生徒理解については、特別支援全体会（4/6）、人権教育実践報告会（3/4）、年度末特別支援全体会（3/11・14 予定）の計３回の研修を実施した。年５回以上という目標を達成しつつ、教職員の指導力・対応力の向上に努めた。
次年度への改善点
● 教育活動のあらゆる場面で、児童生徒の人権感覚を培うとともに、いじめ・不登校の未然防止や早期発見・適切な初期対応に努めていく。

（様式２）

咲洲みなみ小中一貫校　大阪市立南港みなみ小学校・大阪市立南港南中学校
令和５年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標２　未来を切り拓く学力・体力の向上】 全市共通目標(小･中学校) ● 小学校学力経年調査・中学校年度末の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童生徒の割合を小学校は 45%、中学校は 55%以上（R04 年度小 36.6%、中 44.6%）にする。 ● 小学校学力経年調査・中学校チャレンジテストにおける国語および算数・数学の平均正答率の対市比及び対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より１ポイント向上させる。 ● 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 93%以上にする。(R04 年度 90.7%) ● 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。(R04 年度 68.3%) ● 大阪市英語力調査におけるＣＥＦＲ　Ａ１レベル相当以上の英語力を有する中学３年生の割合(４技能)を 60%以上にする。(R04 年度 52.9%) ● 小学校学力経年調査・中学校年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の質問に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童生徒の割合を小学校で 70%以上、中学校で 60%以上にする。(R04 年度小学校 61.5%、中学校 53.7%) 学校の年度目標 ● 基礎学力の定着を目指し、学校評価アンケートにおける「家庭学習が習慣になっている」という質問に対する肯定的回答を小学校で 85%以上、中学校で 55%以上とする。(R04 年度小学校 77.5%、中学校 48.6%)	小 B 中 B

R04	３年	４年	５年	６年	７年	８年	９年
国語	97.0	97.2	95.3	99.6	83.6	91.8	91.1
算数/数学	99.2	97.9	96.9	98.0	77.6	104.3	93.9

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【４　小学校　誰一人取り残さない学力の向上】 ● 児童が、互いに自分の考えを説明し合うことで、自らの考えを深め広げることができるような授業を展開する。 ● 一人一台端末の積極的な活用や家庭学習の工夫によって、基礎学力の定着を図る。	

● 漢字検定への取組を通して、国語の基礎学力向上を図る。 ● 年間６回以上の国語科の研究授業を行い、教員の授業力向上に努める。 ● 英語モジュール授業を週３回以上実施するとともに、指導内容を工夫することで、外国語（英語）への興味関心を高める。 指標 ➢ **小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童を 45%以上 にする。** ➢ **学校評価アンケートで「家庭学習が習慣になっている」の質問に対する肯定的回答を 85%以上にする。** ➢ **小学校学力経年調査における国語および算数の対市比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。** ➢ **小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 93%以上にする。** ➢ **小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。**	小 B
取組内容②【４　中学校　誰一人取り残さない学力の向上】 ● 各教科において、「主体的・対話的で深い学び」につながる授業を展開する。 ● 一人一台端末等 ICT の活用や家庭学習の定着を図ることによって、基礎学力の向上に努める。 ● 研究授業週間を設定し、「主体的・対話的で深い学び」の視点で参観・研究討議を行い、教員一人一人の授業力向上を図る。 ● 英語検定への取組を通して、英語の基礎学力向上を図る。 指標 ➢ **中学校年度末の学校評価アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 55%以上にする。** ➢ **中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均正答率の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。** ➢ **英語検定 4 級以上の合格率を 55%以上とする。(R04 年度 54.2%)** ➢ **学校評価アンケートで「家庭学習が習慣になっている」の質問に対する肯定的回答を 55%以上にする。**	中 B
取組内容③【５　健やかな体の育成】 ● 児童生徒が楽しみながら体力の向上を図ることのできる体育科･保健体育科の授業や体育的行事を展開することにより､運動意欲を喚起し運動習慣の定着に努める。 ● バランスの取れた「運動・食事・休息（睡眠)」に着目させながら、自らの「体力」や「生活リズム」に対する興味関心を高める。 指標 ➢ **小学校学力経年調査・中学校年度末の学校評価アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を小学校で 83%以上､中学校で 80%以上にする。(R04**	小 C 中 C

年度小学校 80.5%、中学校 77.4%）

- **学期毎の校内調査における「朝食を毎日食べていますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を小学校で 95%以上、中学校で 90%以上にする。（R04 年度小学校学力経年調査 92.2%、中学校学校評価アンケート 83.1%）**
- **学期毎の校内調査における「１日あたりどれくらいのすいみん時間ですか」に対して、７時間以上と回答する児童生徒の割合を小学校・中学校ともに 30%以上にする。（R04 年度小学校学力経年調査 25.5%、中学校未調査）**

年度目標の達成状況や取組の結果と分析

- 小学校の学力向上において、学力経年調査では、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答した児童の割合は約 42%と目標をわずかに下回った。平均正答率については、対市比の同一母集団の前年度との比較において、以下の結果となった。

対市比	３　年		４　年		５　年		６　年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
令和５年度	94.5	94.5	97.6	96.8	99.5	100.4	98.6	98.1
令和４年度	－	－	97.0	99.2	97.2	97.6	95.8	96.9

今年度より研究教科を国語とし、児童の「読み取る力」の育成に重点を置き取り組んできたこともあり、国語では全学年前年度を上回り目標を達成することができた。算数も含め、今年度取り組んだ成果と課題を明らかにし、次年度に活かしていきたい。また、同調査において、「理科の勉強は好きですか」に対する肯定的回答の児童の割合は約 78%と目標を大きく下回る結果となった。実験や観察等の楽しさだけでなく、予想する・考察するといった「考える楽しさ」を粘り強く伝えていきたい。「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対しては、肯定的回答の割合は約 75%と目標と同値であった。英語モジュール授業を週３回以上着実に実施できるよう、引き続き各学級での意識を高めていく。家庭学習の定着については、第２回学校評価アンケートにおいて、「家庭学習が習慣になっている」の質問に肯定的な回答を示した児童の割合は約 83%（１～３年：約 92.5%、４～６年：約 73.7%）と目標をわずかに下回った。適切な分量や内容等にも着目しながら、引き続き習慣の定着を図っていく必要がある。

- 中学校の学力向上において、第２回学校評価アンケートで「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合は約 46%と目標を大きく下回った。また、「家庭学習が習慣になっている」に対する肯定的回答も、約 50%と目標を下回った。生徒が必要感をもって取り組むことができるようにしていく必要がある。中学校チャレンジテストの結果において、国語および数学の平均正答率の対府比を同一母集団の前年度と比較した結果は以下のとおりである。

対府比	７　年		８　年		９　年	
	国語	数学	国語	数学	国語	数学
令和５年度	103.0	107.9	93.3	79.1	93.7	99.4
令和４年度	－	－	91.8	104.3	91.1	93.9

９年は国語・数学とも前年度を上回り、特に数学では大きく結果を伸ばした。８年については、国語では前年度を上回ったものの、数学では大きく下回る結果となった。生徒一人ひとりの課題を明確にしつつ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、各

教科でさらに取組を進めていく。英語力向上に向けた英語検定においては、４級以上の合格率が約 63.8％（準１級 100.0％、２級 50.0％、準２級 40.0％、３級 83.3％、４級 63.6％、５級 64.7％）と目標を上回る結果となった。３級以上では、全国の中学生平均を上回る合格率が多くなっているが、４級・５級については、全国平均を大きく下回っていることからも、基礎基本の定着を中心とした取組を継続していく。 ● 健やかな体の育成において、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校（学力経年調査）では約 81％、中学校（第２回学校評価アンケート）では約 78％と、いずれも目標にわずかに届かなかった。今後も、日々の体育科授業や保健体育科授業のみならず、体育的行事や部活動を通して、児童生徒の運動意欲の向上に取り組んでいく。朝食と睡眠に関しては、「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的に回答する児童生徒の割合は、小学校（２学期校内調査）で約 89％、中学校（第２回学校評価アンケート）で約 87％とわずかに目標を下回った。「１日あたりどれくらいのすいみん時間ですか」に対して７時間以上と回答する児童生徒の割合は、小学校（２学期校内調査）で約 56％、中学校（第２回学校評価アンケート）で約 32％といずれも目標を達成することができた。特に、小学校においては割合が前年度より倍増する結果となった。今後も、家庭と連携しながら、児童生徒の生活リズムの安定に取り組んでいく。
次年度への改善点
● 学力向上については、小中ともに、基礎学力の定着と対話的な学習の推進に向けて、学年・教科でそれぞれの授業を見直すとともに、児童生徒が主体的に学習に向かうことができるよう、学習意欲の喚起に努めていく必要がある。 ● 健やかな体の育成については、児童生徒の運動意欲の向上に働きかけていくことに加え、児童生徒が自身の生活リズムを振り返り改善していく契機となる取組と保護者への啓発を引き続き進めていく。

（様式２）

咲洲みなみ小中一貫校　大阪市立南港みなみ小学校・大阪市立南港南中学校
令和５年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標３　学びを支える教育環境の充実】 全市共通目標(小･中学校) 【ＩＣＴの活用に関する目標】 ● 学校評価アンケートで「タブレットやPCを取り扱うことは楽しい」の質問に対して、肯定的に答える児童生徒の割合を小学校で95%以上、中学校で85%以上とする。(R04年度小学校92.7%、中学校78.5%) 【教職員の働き方改革に関する目標】 ● 教職員の月間時間外勤務実績を前年より減少させる。(R04 年度小学校約 29 時間、中学校約50時間) ● 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 95%以上にする。(R04 年度 89.0%) 学校の年度目標 ● 学校評価アンケートで「読書は好きですか」の質問に対して、肯定的に答える児童生徒の割合を前年度より増加させる。(R04 年度小学校 82.6%、中学校 57.6%) ● 学校ホームページのアクセス数を年間75,000件以上とし、保護者地域への情報発信に努める。	小 B 中 B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【６　教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 ● ICTの推進を目指し、一人一台端末を活用した学習の機会を増やしながら、効果的・効率的に基礎学力の向上を進める。	小 B
指標 ➢ **学校評価アンケートで「タブレットやPCを取り扱うことは楽しい」の質問に対して、肯定的に答える児童生徒の割合を小学校で95%以上、中学校で85%以上とする。**	中 C
取組内容②【７　人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ● 校務負担の均等化や業務の効率化、取組内容の見直し等を進めることにより、教職員の長時間勤務の改善と年休取得の推進に取り組む。	B
指標 ➢ **教職員の月間時間外勤務実績を前年より減少させる。** ➢ **年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を95%以上にする。**	

取組内容③【８　生涯学習の支援】 ● 図書委員会の活動や環境整備を進めることにより、児童生徒の読書への関心を高める。 指標 ➢ **学校評価アンケートで「読書は好きですか」の質問に対して、肯定的に答える児童生徒の割合を前年度より増加させる。**	小 B 中 B
取組内容④【９　家庭・地域と連携・協働した教育の推進】 ● 学校だより等の発行に加え、ホームページの更新、メール連絡等により積極的な情報発信を図る。 ● 地域行事や近隣施設との交流イベントへの参加を進め、小中一貫校としての魅力を発信していく。 指標 ➢ **保護者アンケートの「学校は、小中一貫校としての特色や魅力を発信している」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を 50%以上とする。（新規設問）**	A

年度目標の達成状況や取組の結果と分析

- 一人一台端末の活用について、第２回目学校評価アンケートでは、「タブレットや PC を取り扱うことは楽しい」と肯定的に答える児童生徒が、小学校で約 92%、中学校で約 75%といずれも目標を下回っている。今後も効果的かつ安定的な活用方法について検討していく。
- 長時間勤務の解消について、４～２月の平均月間時間外勤務実績は、同時期の前年度と比べて、小学校で約 29 時間と同値、中学校で約 44 時間（前年度約 50 時間）と減少する結果を示し、一定の改善が見られた。年次有給休暇の取得状況については、２月末時点で、10 日以上取得済みの教職員の割合は約 85%（小学校 90%、中学校 80%）と目標には至っていない。春季休業を含めた３月の取得分を考慮しても、目標にはわずかに届かないと思われる。ちなみに、時休での取得を含めず一日単位での取得のみの場合は、約 65%（小学校 72%、中学校 57%）となっている。
- 読書について、第２回学校評価アンケートで「読書は好きですか」の質問に対して肯定的に答える児童生徒の割合は、小学校で約 78%とわずかに昨年度を下回ったが、中学校では約 59%と目標を達成することができた。児童生徒の読書離れは今日的課題であるが、読書月間のみならず、まずは普段から学級担任が声掛けや時間確保等のアプローチをしていく必要があると思われる。加えて、今後も継続して司書を中心とした啓発に取り組んでいく。
- 学校・家庭・地域の連携について、第２回学校評価アンケートの「学校は、小中一貫校としての特色や魅力を発信している」の質問に対して、肯定的に答える保護者の割合は約 70%であった。ホームページの更新等、学校の発信に対し一定の理解を得られていると思われる。ちなみに、ホームページの年間アクセス数は、２月末時点で約 68,000 件となっている。

次年度への改善点

- ICT の活用については、家庭学習の定着とも絡めながら進めていくとともに、メディア・リテラシーについても発達段階に応じて適切に指導していく必要がある。
- 時間外勤務の削減に向けて、業務の効率や必要度を常に見直し、共有化や効率化を図っていく。また、教職員が年休・時休が取得しやすい環境を整えていくとともに、日々の退勤時間や毎月の超勤時間を意識できるようにしていく。